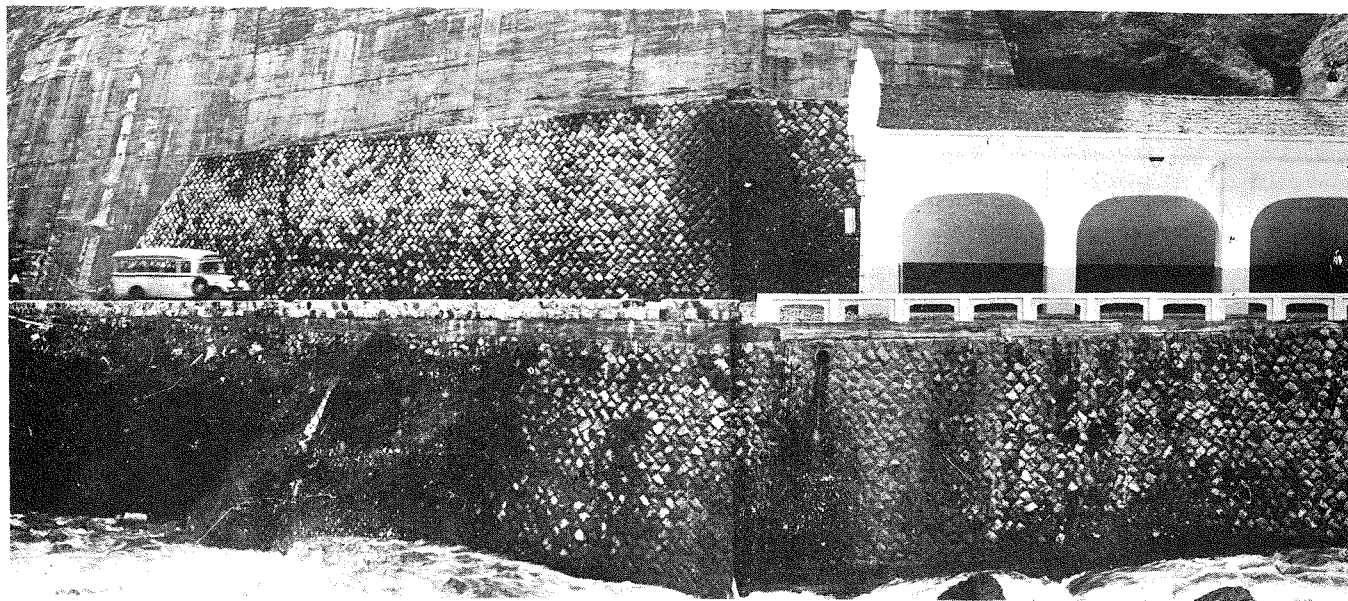




## 國道一號線足柄下郡湯本町地内に 築造せる所謂『開腹隧道』に就て

神奈川縣土木部長

田邊 良忠

1. 名 稱

函嶺洞門

2. 延 長

99米1

3. 幅 員

車道 6米36 厚15糎コンクリート鋪裝)

歩道 1米3 (厚 7糎コンクリート鋪裝)

4. 路面上有效高

5米15

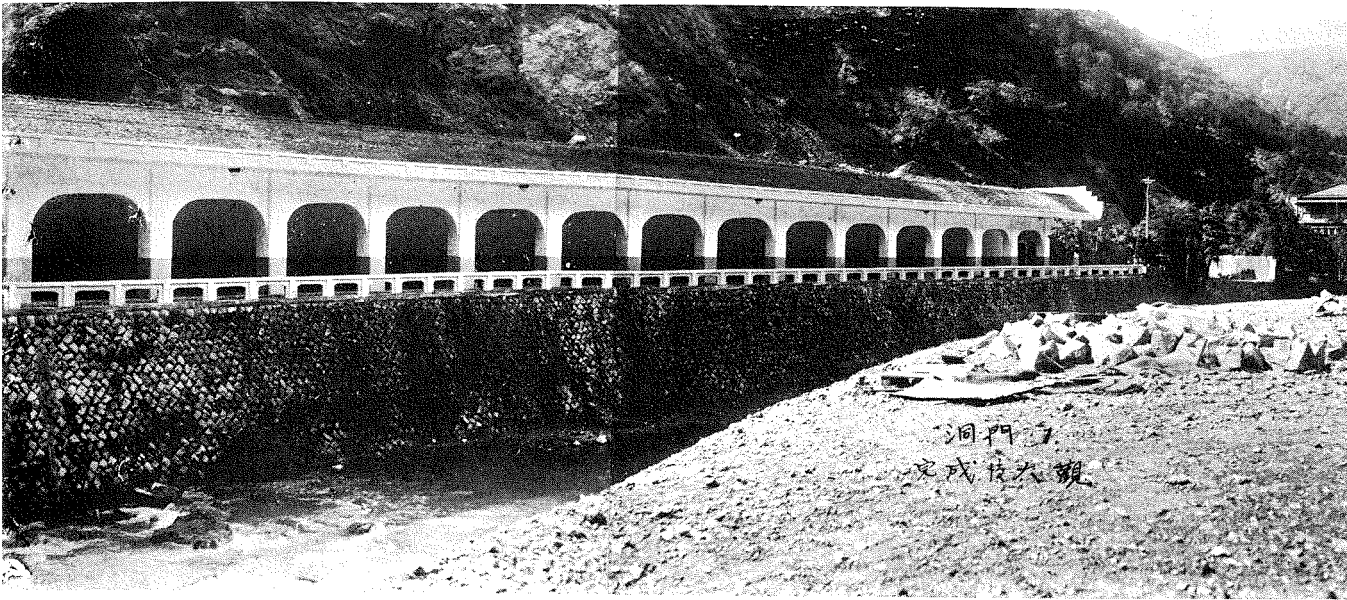
5. 工 事 費

5萬48圓

6. 工 期

自昭和5年4月 至同6年10月

7. 本構造採用理由



## 1. 函嶺洞門完成後の大観

本箇所を上掲の寫眞の如き所謂開腹隧道を採用したるは、元來本箇所附近長約150米間は、高120米の屹立せる峻崖と激流とに阻まれ加ふるに地盤脆弱なる爲、四季を通じ岩石土砂の落下を見、函嶺親不知の異名を取るに至りしを以て、種々之が防護工を施したるも、地盤脆弱に禍され爲に效を奏せず、茲に「スノーヘッド」の創意に依り、本工法を採用せるものなり。

### 8. 工法の概要

全長を18徑間とし、採光の爲河側を開放せるものにして、天井及山側版の表面はアスファルト・フェルトを粘着せしめ、そ

の上部に岩石屑を充填し、柱基礎に於て30輻角の盲溝を設けたり。而して天井上部には1米5の置土を爲し、川手柱直上縦桁天端に副ひて鐵製導水渠を置き、川手各柱毎に鐵製管を以て排水せり。

### 9. 本隧道の効果

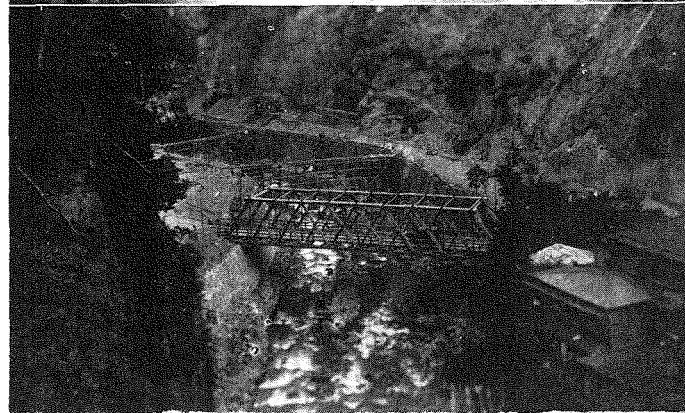
本隧道の工事中、かの豆相大地震に遭遇せり。當時既に竣功を見たる一部分に對し、長2米8太さ1米4の大岩石（加速度を加算して推定重量約9萬斤）山手法部より落下したるも、纔に天井版の一部を破壊せしに止まり、他徑間には何等の影響を見ざりき。



2. 函嶺洞門正面



3. 洞門築造前の落石防護工



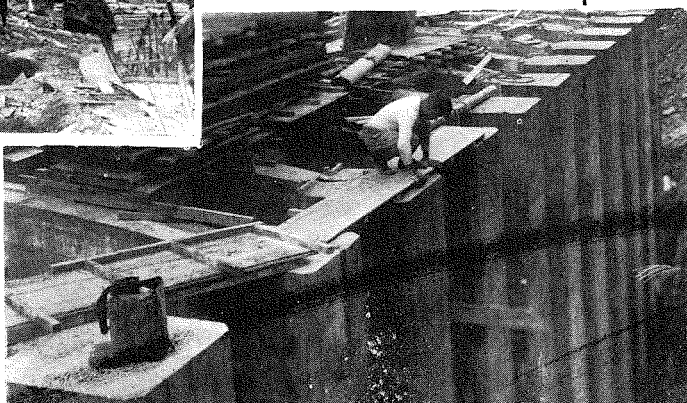
4. 洞門築造位置附近

5. 洞門對岸土捨場築造前風景





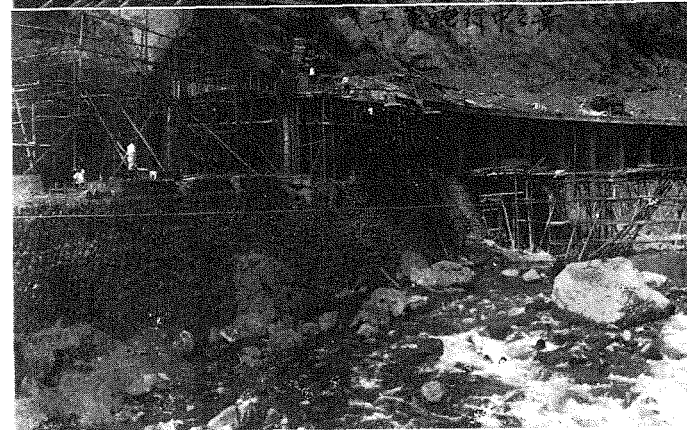
6. 昭和5年11月豆相震災の被害



7. 函嶺洞門山手柱型



8. 川手柱型基礎配筋



9. 工事施行中の景

# 函 嶺 隧 道

